

商品ではなく人間としての平等を

ルネサス懇

3月8日は国際女性デー

3月8日の国際女性デーにあたり、ルネサスでは今年も経営トップからメッセージが発せられました。グローバルに働く私たちの仲間が、LGBTQ+や、さまざまな属性によらず平等であることは、とても大切です。

商品としての平等ではなく

「たくさんお金を稼いでいる人は、それだけ社会に貢献している」というのは誤解です。それは、私たちの身の回りには、家事や育児や介護など、人間の生活と社会の存続に根源的に必要でありながら、多くは無償か低賃金の労働が存在することから明らかです。加えて、コロナ禍で注目されたエッセンシャルワークも、多くは低賃金です。その反対に「ブルシットジョブ（牛のうんこみたいにくだらな仕事）」で高収入を得る人がいることも知られるようになりました。

なぜそうなってしまうのでしょうか。それは、私たちの労働が商品であるからです。ルネサスが家族手当を廃止したことからも明らかのように、家事も育児も介護も、企業にとっては（直接的には）商品価値の無い労働だからです。

仮に企業が、商品たる私たちの労働の価値を、利益の増殖への貢献など「企業にとつての価値」を指標に量ったうえで、「平等」に賃金を払ったとして、それは果たして人間の平等を実現するのでしょうか。私たちが求めているのは、商品として扱う者と扱われる私たちの不平等を放っておきながら、私たちの労働（あるいは私たち自

<発行者>
ルネサス関連
労働者懇談会
(ルネサス懇)
意見と情報は、
〒142-0043
東京都品川区二葉
2-20-8染野ビル
(電機労働者
懇談会気付)
(03) 6421-5323

電機・情報ユニオンへの相談は、



身)という商品が平等に扱われさえすれば良いということではないはずです。

フェミニズムの最前線は

ここで本を一冊紹介いたします。2019年に出版された「99%のためのフェミニズム宣言」は、日本を含む世界25か国で翻訳されています。

フェミニズムと言うと、女性が権利を主張する煙たい思想(そして往々にして男性を悪者扱いする)と誤解される方もいるかも知れません。あるいは最近よく聞かれる「女性の活躍」という言葉を連想されるかも知れません。

しかし本書では、いわゆる女性の活躍(例えば企業の経営者などに女性が進出するなど)を奨励する「リベラル・フェミニズム」を批判します。一部の女性の社会的成功が、他の圧倒的多数の女性の解放につながるどころか、抑圧をより強めてしまう構造があるからです。そしてその構造は、性別以外にも多様な抑圧や差別の原因であると同時に、一向に改善しない環境問題や少子化などに現れるように、社会の持続性を損なう諸問題の元凶でもあります。その構造とは資本主義です。本書は資本主義の克服に向けて、女性だけでなく、あらゆる属性の人たちの国際的な連帯を呼び掛けています。興味を持たれた方は一読ください。

